



訳の分からないお経？

お坊さんがお経を読んでいる声だけを聞いていると、お経には訳のわからないことが書かれて、自分には関係無いことのように思いかもしれません。しかし、お経には迷い苦しみを越えていくお釈迦様の教えが説かれています。ですから、お経を読むということは、本来は私がお釈迦様の教えに出遇うことなのです。

お経は誰のため

ところが、私たちは自分が迷いの人生を送っているとは、日ごろ思っていない。そのため、自分がお経に出遇う必要があるとは感じておらず、他人事のように考えています。

発行所  
龍頭山 受法寺  
〒781-0262  
高知市浦戸 343  
088-841-3870  
URL: juhouji.com



E-mail  
juhouji@gmail.com

訳されているかを聞くこともなく、自分を問うこともなく済ませているのでは無いでしょうか？

亡くなった人にお経を読んであげないといけないというのでも、そのあらわれです。亡くなった人がお経を聞いているかどうかを、確かめたことがないにもかかわらずです。仏となられた亡き人の私への願いに、気づいていくべきではないでしょうか？お経に何が

たとえば、親鸞聖人が真実の教と仰いだ『大無量寿経』には、次のような言葉があります。

「吉凶禍福、競いておのおの之を作す。一も怪しむものなきなり。」

これは、吉凶や禍福にとらわれている人間の姿を教えよう

私への呼びかけ

お経はどこまでも、仏様から「迷い苦しむあなたを、どうしても救いたい」という私に対する呼びかけです。日ごろは疑ったこともない

自分の生き方を見つめ直すこと、これがお経との出遇いによって始まるのです。この意味で、お経は私たちの生き方を照らし出すものだといえます。

その仏様からの呼びかけを聞いていくことが、仏の教えを聴く法座なのです。

例年の5月開催永代経を変更

永代経法要・盆会法要

日時 七月十六日(金)

昼二時 読経 納骨堂

昼二時半 永代経法要 本堂

法話 深水健司師

本願寺派布教使 愛媛県